

近畿中国局フォレスターNEWS

早生樹（センダン）の育成の現地検討会を開催（兵庫県）

伐採まで約40年以上かかるスギ・ヒノキ等の一般的な造林樹種と比べ、成長が早く約20年程度で収入が得られる、センダン※1やコウヨウザン※2といった早生樹が近年注目されています。

兵庫森林管理署では、「気温と施肥等が成長に与える影響の解明」や「スギとの混植による新たな施業体系の確立」等を目的として、植栽試験地を設定しています。

今回、林業振興に力を入れている宍粟市と共催し、再生利用が困難な荒廃農地でセンダンの育成に取り組んでいる早生樹活用研究会の協力を得て、11月28日（木）に「早生樹（センダン）の育成」をテーマに現地検討会を実施しました。

開催に先立ち宍粟市産業部長から挨拶をいただき、マンガ谷国有林内のセンダン植栽試験地において、近畿中国森林管理局から「管内各署で行われている早生樹の取組状況」について、兵庫森林管理署から「植栽初期の成長結果や保育にかかるスギ・ヒノキとのコスト比較」について説明を行いました。

次に、早生樹活用研究会の実証圃場に場所を移し、同研究会から農耕放棄地対策の視点から農地法上の手続きや地元との連携について、兵庫県森林林業技術センターから県内植栽地の調査概要の説明が行われました。その後、兵庫森林管理署から、「レーザー計測機による成長量調査の省力化の試み」について説明を行いました。

検討会は、兵庫県、自治体林務担当者、林業事業者等から39名の方々に参加いただき、有意義な現地検討会となりました。

参加者からは、「早生樹の育成に今後取り組みたい」との意見や、耐寒性に問題があるセンダンの特性を鑑み、県内の温暖地（淡路島）での試験植栽やセンダン以外の早生樹の試験植栽の要望などがありました。

※1 センダン：本州 伊豆半島以西に自生するセンダン科の落葉広葉樹。樹高20m、胸高直径80cmに成長するものもある。公園等の緑化木や街路樹として植栽されており、材は家具材として利用。

※2 コウヨウザン：中国南部や台湾原産のヒノキ科の常緑針葉樹。日本では江戸時代以前から寺社等に導入。樹高30m以上、胸高直径1m以上に達するものもある。合板、建築材、内装材及び家具材として利用。



試験地植栽地の現地検討状況



実証圃場地での現地検討状況

平成31年度 林業普及指導員資格試験について

森林を所有する方々へ、森林・林業に関する技術及び知識の普及や森林施業に関する指導を行うとともに、試験研究機関との連携により専門事項の調査研究を行うことを主な役割とする林業普及指導員を目指すには、「林業普及指導員資格試験」に合格すること等が求められます（当該試験は、平成25年度に林業普及指導員資格試験が見直され、「林業一般」区分と「地域森林総合監理」区分に再編した試験制度となっています）。

本年度実施された「林業普及指導員資格試験」では、全国で「林業一般」区分に164名、「地域森林総合監理」区分に123名の方々が合格されました（両区分に合格した者は、合格者数が重複）。

近畿中国森林管理局職員では、「林業一般」区分に3名、「地域森林総合監理」区分に11名が合格しました（両区分に合格した者を含む）。

来年度も「森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村、地域の林業関係者等への技術的支援を的確に実施する者」を目標に、合格者の増加を図っていきます。

令和元年度 林業普及指導員全国シンポジウムにおいて取組成果を発表

「林業普及指導員シンポジウム」は例年8月から11月にかけて、全国を6ブロック(東北・北海道、関東・山梨、中部・北陸、近畿、中国・四国及び九州)に分け開催されます。本シンポジウムは林業普及指導員同志が互いに研鑽し、全国各地域における現状や課題を共有し、今後の林業普及指導活動につなげることを目的として開催され、都道府県ごとに取組の成果等を発表しています。

また「林業普及指導員全国シンポジウム」では、各ブロックの優秀発表者による発表が行われます。

国有林野での林業普及の取組は、全国の森林管理局から代表局を選出し、全国シンポジウムにおいて「参考発表」として1題発表することになっています。

本年度は11月20日(水)に開催され、全国の森林管理局を代表し、滋賀森林管理署の北本地域林政調整官が出席し、国有林と隣接・近接する民有林と協力し、効率的な路網の整備等により搬出コストの低減を図ること等を通じて、地域における林業及び木材産業の成長産業化を図るための取組について発表を行いました。

翌日には、「林業改良普及事業70周年記念全国林業普及研修大会※」が東京大学弥生講堂で開催され、「林業普及指導員全国シンポジウム」で林野庁長官賞を受賞した優良取組事例の発表や有識者からの特別公演が行われました。

※ 昭和24年に林業改良普及事業を開始してから本年が70年目の節目に当たるため、優れた普及活動について事例研究を行うとともに、学識経験者等から最新の知見を学び、意見交換を行うことを目的に開催。



全国シンポジウムでの発表

一貫作業システム及びシカ被害対策に関する現地検討会を開催（島根県）

島根森林管理署では、伐採適期を迎えたスギ・ヒノキ人工林が年々増加する中、平成25年度から低コスト造林の取組として、伐採と造林の一貫作業システムを導入し、コンテナ苗の植付を実行しています。

また、県内の一部地域では、近年、ニホンジカ個体数の増加や分布地域の拡大により、新植箇所への保護対策が必要な状況となってきています。

このことから中国山地のシカ生息状況や被害の現況について、関係者間で情報共有を図るとともに、一貫作業システムやシカ被害対策について、更なる理解を深めていただくための現地検討会を11月14日(木)に開催しました。

午前中は、「島根県の中国山地におけるニホンジカの生息状況と林業被害」と題し、島根県中山間地域研究センターから情報提供いただきました。午後からは竹山国有林の伐採・造林現地に場所を移し、コンテナ苗の植栽実演や、国有林で考案したくり罠によるシカ誘引捕獲技術「小林式誘引捕獲」の紹介と罠設置の実演等を行いました。

参加者からは、「一貫作業システム」作業時の伐採者と造林者との調整方法や作業分担について、また、シカ防護柵の耐用年数や役目を終えた後の処理について質問やご意見をいただきました。



職員によるコンテナ苗植栽の実

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今年度の現地検討会は数回を残すのみとなりました。

来年度も、引き続き現地検討会を各地で開催する準備をしています。

近畿中国森林管理局のHPにおいて、開催案内を掲載予定です。興味のあるテーマであれば、参加をご検討ください。